

第3章 文京区の地域特性

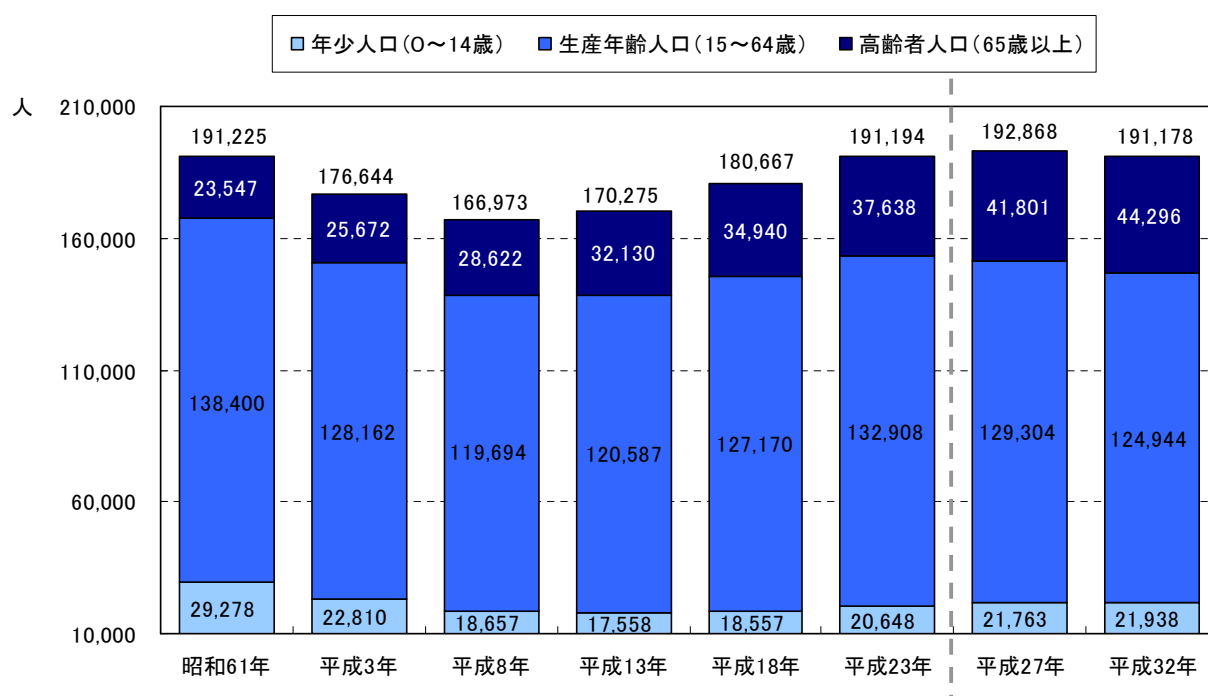
1 人口・世帯の状況

1 人口の推移

人口については、本区が積極的に取り組んできた人口回復のための施策と都心回帰の傾向により、年々増加しており、平成23年1月1日現在で191,194人（外国人登録者数は、7,508人（外数））となっていますが、平成27年以降は減少することが予測されています。

また、年齢3区分別人口割合では、年少人口（0～14歳）及び高齢者人口（65歳以上）は増加、生産年齢人口（15～64歳）は減少する傾向にあり、高齢者人口（65歳以上）は今後も引き続き増加すると予測されています。

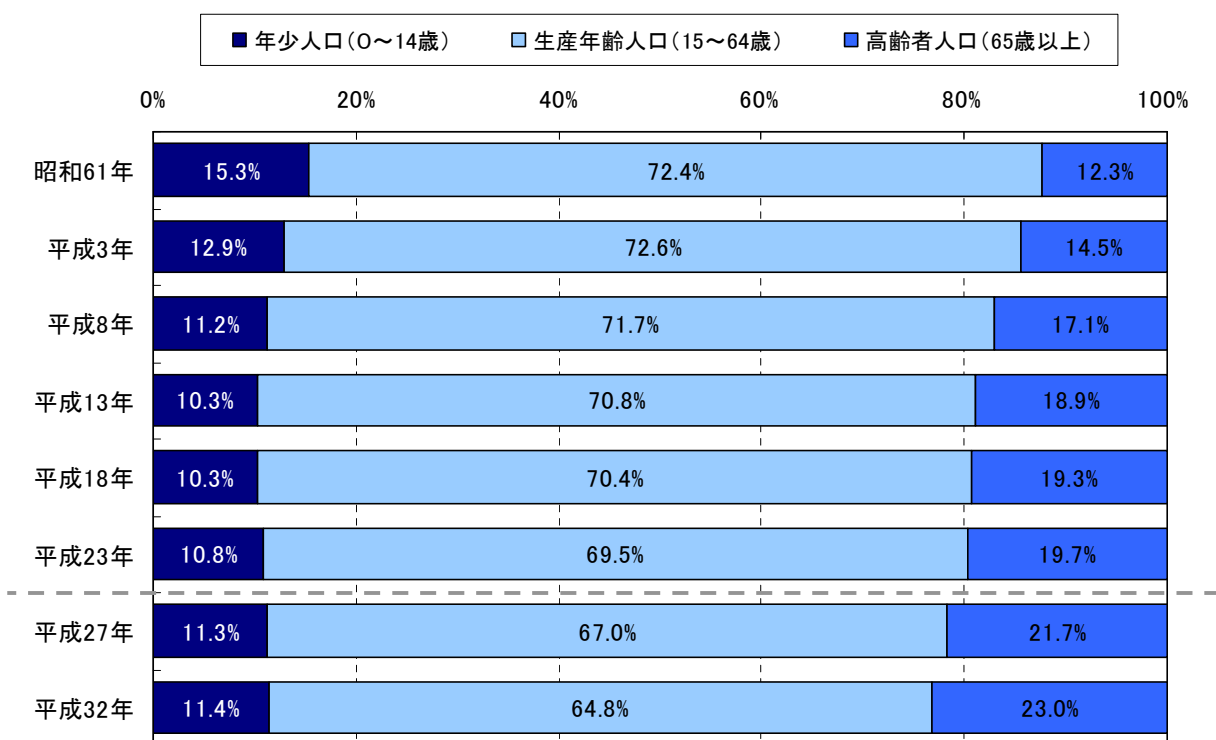
■人口の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年1月1日現在、平成27年及び平成32年は人口推計調査報告書）

第3章 文京区の地域特性

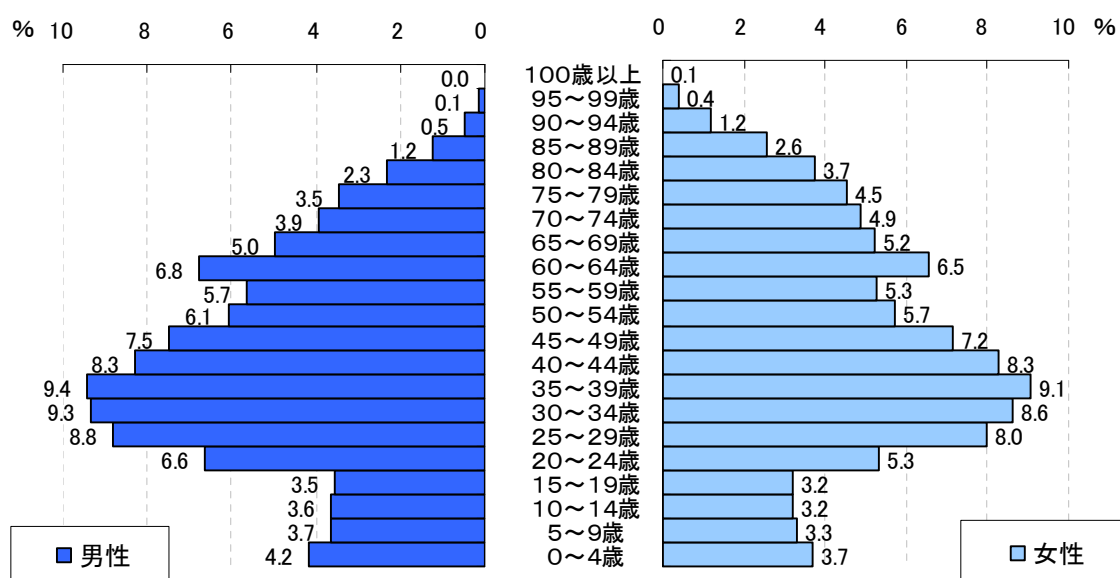
■年齢3区分別人口割合の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年1月1日現在、平成27年及び平成32年は人口推計調査報告書）

人口の構造については、男女ともに20歳未満までは低い割合となっておりますが、20代から50代前半までは高い割合となっております。

■人口ピラミッド（平成23年1月1日現在）



※年齢不詳者を除く。

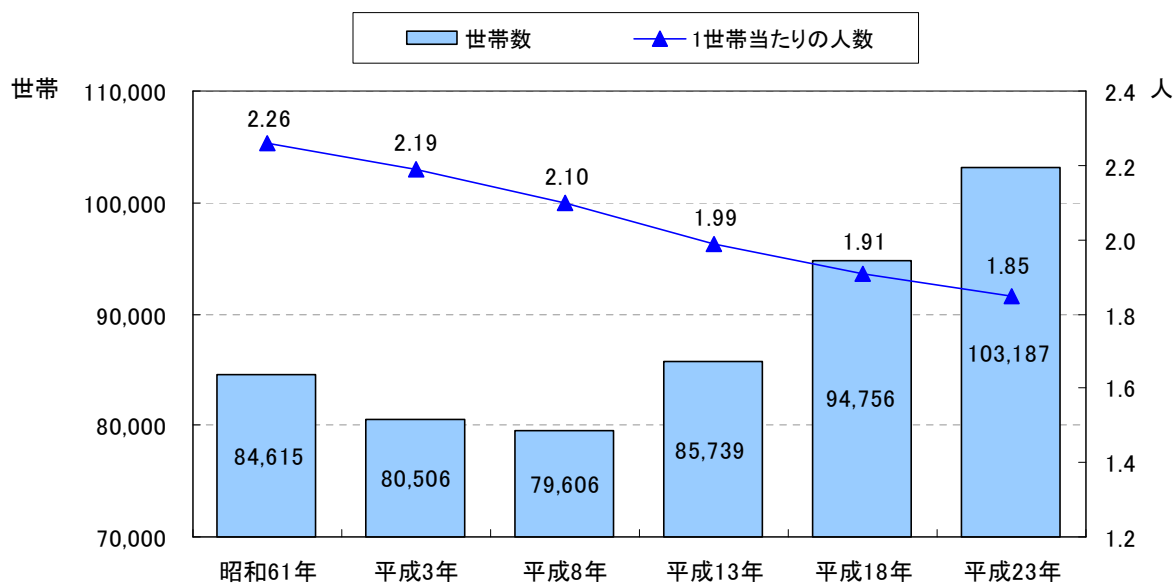
資料：住民基本台帳

2 世帯の推移

世帯数については、昭和61年は84,615世帯でしたが、平成23年には103,187世帯に増加しています。

また、1世帯当たりの人数については、昭和61年は2.26人でしたが、平成23年には1.85人となるなど、年々漸減傾向にあります。

■世帯数と1世帯当たりの人数の推移



資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

2 地域環境

○ 地理

本区は、東京の都心に近接するとともに、新宿、上野、池袋などの副都心に囲まれて位置しており、5つの台地と5つの低地により構成されています。この台地と低地の間には、20m前後の高低差があり、名のある坂が115存在するなど、起伏に富んだ地形となっています。

また、面積は約11.31km²、周囲は南北約4km、東西約6kmの約21kmであり、東京23区中20番目の広さです。

■文京区の地形



○ 地価水準

近年は下落傾向にありますが、平成23年における本区の住宅地の平均公示地価は、東京23区中第6位であり、全国的に見ても高い地価水準となっています。

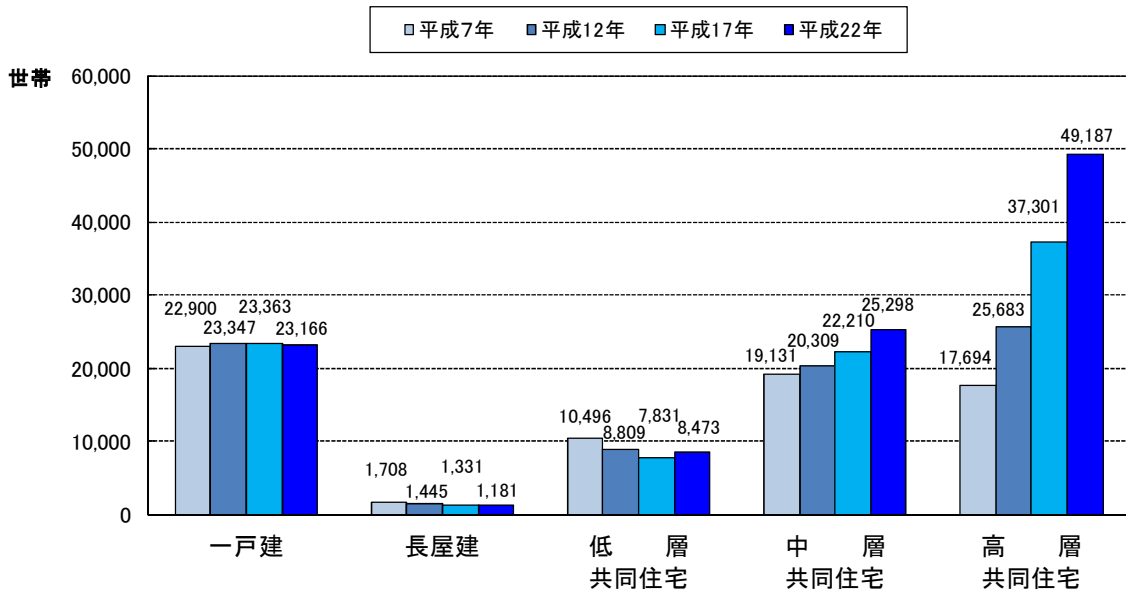
○ 住環境

住居系の用途地域は面積の約6割を占め、緑被率は17.6%と東京23区中第8位であり、緑に囲まれた閑静な住宅地が多く、東京23区で最も刑法犯発生件数が少ないなど、良好な住環境を形成しています。

○ 住宅

高層マンションなどの立地により、主要幹線道路沿道を中心に、中高層共同住宅の増加傾向が継続しており、総世帯数に対する中高層共同住宅が占める割合は、平成7年には51.2%でしたが、平成22年は69.4%となっています。

■住宅の建て方別割合



注：共同住宅は、低層が1、2階、中層が3～5階建、高層が6階建以上

資料：国勢調査

○ 教育機関

18の大学をはじめ、数多くの教育機関が区内各所に立地し、「文教のまち」として知られるなど、教育環境に恵まれています。

○ 医療機関

高度な医療を提供する11の大学病院・公立病院から、地域に根差した医療を提供する255の診療所まで、多様な規模・機能を持つ医療機関が所在し、医療環境に恵まれています。

○ 交通環境

地下鉄は6路線・20駅、バス路線は19系統が運行し、区内のほぼ全域が駅やバス停から400m以内にあり、交通網が整備された利便性が高いまちとなっています。

また、コミュニティバス「Bーぐる」が、従来の千駄木・駒込ルートに加え、平成23年12月から、第2路線である目白台・小日向ルートの運行を開始し、既存のバス路線網を補完することで、公共交通不便地域の解消に努めています。



